

昭和館館報

令和元年度

口 絵			
ごあいさつ	1		
フロア構成	2		
年間主要行事	3		
令和元年度事業概要	4		
I 展示事業	4		
1 常設展示	4		
(1) 常設展示室の概要	4		
(2) 展示資料の入れ替え	4		
2 巡回特別企画展の開催	4		
(1) 第35回巡回特別企画展 「戦中・戦後の暮らし 福島展」	5		
(2) 第36回巡回特別企画展 「戦中・戦後の暮らし 長崎展」	5		
3 貸出キット	6		
4 紙芝居定期上演会	7		
5 教員のための博物館体験	7		
6 実物資料の収集と保存	8		
(1) 実物資料の収集	8		
(2) 実物資料の保存と補修	8		
II 図書映像資料等閲覧事業	9		
1 図書文献関係	9		
(1) 運用管理	9		
① 閲覧室及び書庫の管理	9		
② レファレンス・サービス (参考調査業務)	9		
③ 利用ガイドの発行	9		
④ 展示関連図書の公開と参考図書 リストの配布、読書案内	9		
⑤ ホームページ	10		
⑥ 蔵書点検	10		
⑦ 利用状況	11		
(2) データ管理	12		
① 収蔵図書のデータ管理	12		
② 目次データ入力	12		
(3) 保存管理	12		
(4) 業務研修	12		
2 映像・音響関係	12		
3 ニュースシアター	13		
4 収蔵資料	13		
(1) 図書資料の収蔵状況	13		
(2) 映像・音響資料の収蔵状況	14		
III 関連情報提供事業	16		
1 運用管理	16		
(1) システム運用管理	16		
(2) データベース運用管理	17		
(3) ホームページ運用管理	17		
(4) SNSの活用	18		
(5) Wi-Fi提供	18		
2 オーラルヒストリーの製作	18		
IV 啓発広報等事業	20		
1 広報活動	20		
(1) 広報資料の作成及び発送	20		
(2) 広報と掲示及び掲載	20		
(3) 昭和館だよりの発行	20		
(4) 戦中・戦後の労苦を伝える語り部事業	21		
(5) こども霞が関見学デー	21		
(6) 第18回昭和館見学作文コンクール	22		
(7) 第12回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール	22		
2 『昭和のくらし研究』の刊行	23		
3 展示資料の貸出	24		
4 昭和館運営専門委員会の開催	24		
5 昭和館運営有識者会議の開催	25		
6 インターシップ	25		
7 関係施設等連携会議の開催等	25		
(1) 第16回、第17回会議を開催	25		
(2) 3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」実施	25		
(3) 移動教室「シベリア抑留絵画展 冬と夏を描く」を開催	26		
(4) 巡回特別企画展の相互協力	26		
V 特別企画展等の開催及び概要	27		
1 昭和館開館20周年記念特別企画展 「受け継がれる想い ～資料に見る戦中・戦後の暮らし～」	27		
2 特別企画展 「SF・冒険・レトロフューチャー ～ぼくたちの夢とあこがれ～」	29		
3 特別展示	30		
(1) 「この史代イラスト原画展」	30		
(2) 開館20周年記念展示「昭和館20年の足跡」	30		
4 開館20周年記念写真展 「昭和の世相～写真が語る戦中・戦後～」	31		
5 戦後75年特別企画写真展 「東京情景一師岡宏次がみた昭和一」 第1期 戦争への不安と人びとの暮らし	32		
6 資料公開コーナー	32		
7 5階ギャラリー展示	33		
参考			
1 昭和館入場者状況の推移(平成11年度～元年度)	34		
2 令和元年度利用者実績	35		
3 常設展示室入場者数	35		
4 来館団体御芳名	36		
5 第18回昭和館見学作文コンクール・ 厚生労働大臣賞受賞作品	37		
6 第12回昭和館中学生・高校生ポスター コンクール入賞作品の紹介	38		
7 施設概要	39		
8 令和元年度寄贈者御芳名	41		

口 絵
外観写真





7階 常設展示室「銃後の備えと空襲」 防空壕体験コーナー



6階 常設展示室「子どもたちの戦後」 青空教室（制作：安部朱美）



6階 常設展示室「体験ひろば」 着てみよう！



5階 映像・音響室



4階 図書室



1階 昭和館懐かしのニュースシアター



2階ひろばにて
紙芝居定期上演会



開館20周年記念特別企画展
「受け継がれる想い～資料に見る戦中・戦後の暮らし～」
(令和元年7月20日～9月8日)



特別企画展
「SF・冒険・レトロフューチャー ～ぼくたちの夢とあこがれ～」
(令和元年3月14日～5月10日)



巡回特別企画展「戦中・戦後の暮らし 福島展」
とうほう・みんなの文化センター 3階展示室
(令和元年10月17日～10月27日)



巡回特別企画展「戦中・戦後の暮らし 長崎展」
長崎歴史文化博物館 3階企画展示室
(令和元年11月30日～12月15日)

ご あ い さ つ



昭和館は、国民が経験した戦中・戦後の生活に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示して、国民生活上の労苦を次世代の人々に伝える国立の施設として平成11年3月に開館。平成31年3月には開館20周年を迎え、総入館者数も620万人（令和2年3月末現在）を超えました。

令和元年度は、5月に天皇陛下御即位慶祝展示を行いました。また、開館20周年記念事業として、夏の特別企画展「受け継がれる想い～資料に見る戦中・戦後の暮らし～」、2階ひろばでの秋の写真展「昭和の世相～写真が語る戦中・戦後～」をはじめ、特別展示「この史代イラスト原画展」、記念展示「昭和館20年の足跡」を開催したほか、常設展示室、映像・音響室、図書室、ニュースシアター、資料公開コーナー、紙芝居の定期上演会、紀要「昭和のくらし研究」発刊、こども霞が関見学デー、夏休みスタンプラリー、作文コンクール、中・高校生ポスターコンクールなどを実施し、さらに、戦時中に少年時代を過ごし、東京大空襲を体験した作家・半藤一利氏のオーラルヒストリー（証言映像）を制作し、上映会を行うなど様々な工夫を凝らして取り組みました。

巡回特別企画展では、10月に開催した福島展においては、同一会場で同時開催されたしょうけい館、平和祈念展示資料館との連携により4千人を超える入場者数となり、11月に開催した長崎展では、長崎県の特色が表れる特別展示等により7千人を超える入場者数となりました。

また、戦中・戦後の労苦を伝える語り部育成事業では3年間の研修を終了した一期生の中から7人に「次世代の語り部」を委嘱し、戦後生まれの語り部による講話活動がスタートしました。

これもひとえに関係各位の御支援・御協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。ここに、令和元年度の活動状況を取りまとめましたので御高覧いただければ幸いです。

本年3月には、大変残念ながら新型コロナウイルス感染拡大防止のため、特別企画展「SF・冒険・レトロフューチャー～ぼくたちの夢とあこがれ～」、戦後75年の特別企画として写真展「東京情景－師岡宏次がみた昭和－」が6月1日まで公開できない状況となりました。休館中に、開催中止となってしまった「「SF・冒険・レトロフューチャー～ぼくたちの夢とあこがれ～」については、解説付きの記録映像を作成し展示の様子をご覧いただけるようにしたほか、昭和館ホームページにより館の現況等を時々刻々とお知らせするよう努めました。

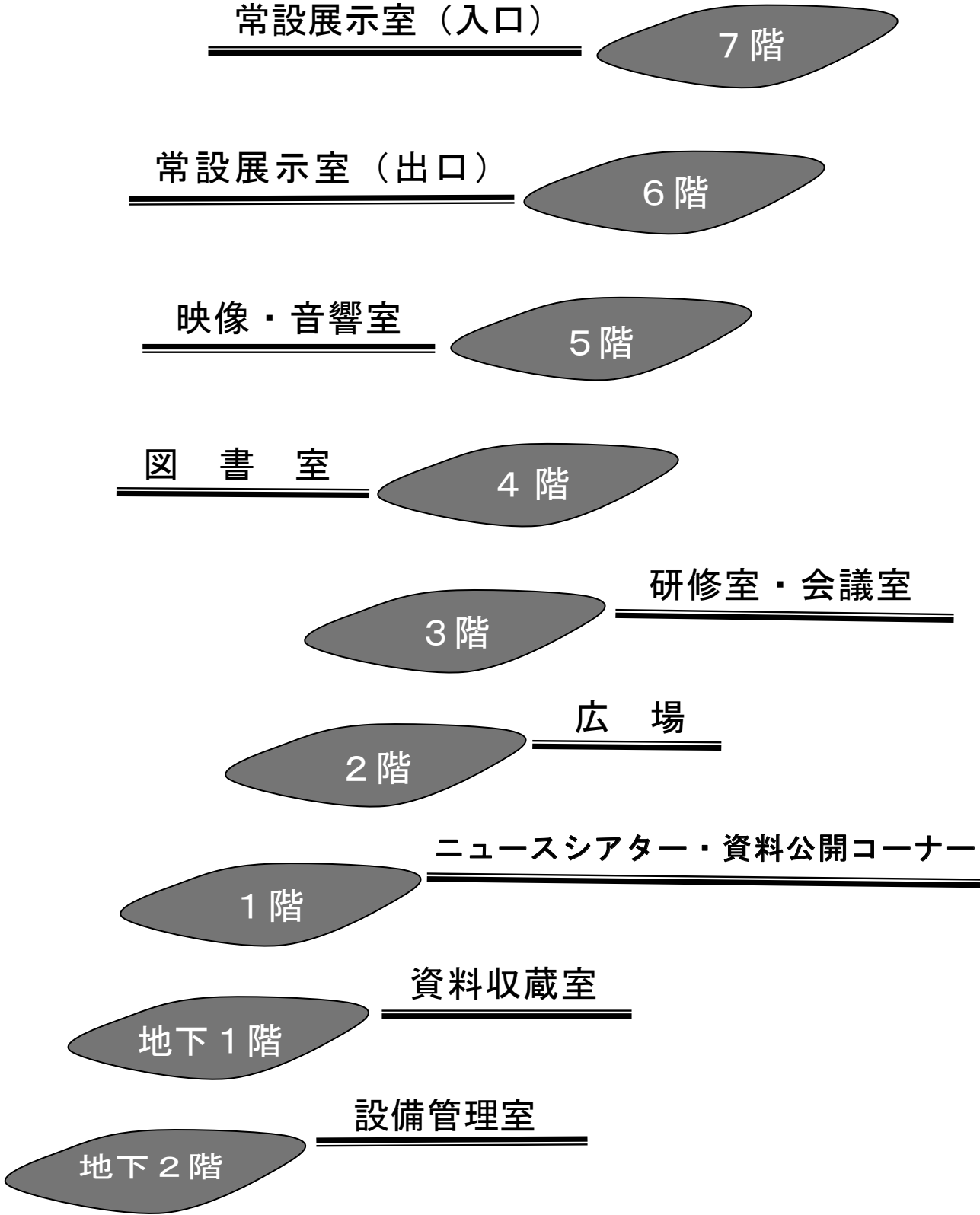
6月2日からの開館に際しましては、検温、マスクの着用、入館者の制限など新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながらの事業再開となりました。

戦後75年の節目の年を迎え、今後とも次の世代、特に若い世代に戦中・戦後の労苦を継承していくため、各種資料の収集充実に努め、魅力ある企画展の開催と様々な観点からの情報提供等が出来るよう、館の運営に励んで参りますので、一層の御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年7月

昭和館
館長 羽毛田 信吾

フロア構成



年間主要行事

平成31年 3月16日～5月6日	開館20周年記念 特別企画展を開催 「日本のオリンピック・パラリンピック ～大会を支えた人々～」
3月16日～5月6日	開館20周年記念 写真展を開催 「昭和に出会う旅ー47都道府県をめぐってー」
4月29日 令和元年	「昭和の日」記念イベント
5月1日～5月12日 5月25日～	天皇陛下御即位慶祝展示 紙芝居定期上演会（奇数月第4土曜日、 1月は2月の第1土曜日に変更）
6月24日～7月1日 6月19日	常設展示室の展示替え（休室） 令和元年度第1回昭和館運営専門委員会を開催
7月9日～12月26日	開館20周年記念 特別展示 「この史代イラスト原画展」
7月13日～9月1日 7月20日～9月8日	「夏休み3館めぐりスタンプラリー」 開館20周年記念 特別企画展を開催 「受け継がれる想い～資料に見る戦中・戦後の暮らし～」
7月20日～9月8日	開館20周年記念展示 「昭和館20年の足跡」
7月25日、7月31日 8月7日～8月8日	教員のための博物館体験 こども霞が関見学デー（厚生労働省の会場）
8月15日 8月22日	「戦没者を追悼し平和を祈念する日」 教員のための博物館体験
9月14日～12月15日	開館20周年記念 写真展を開催 「昭和の世相～写真が語る戦中・戦後～」
10月17日～10月27日	第35回巡回特別企画展を開催 「戦中・戦後の暮らし 福島展」
11月30日～12月15日	第36回巡回特別企画展を開催 「戦中・戦後の暮らし 長崎展」
令和2年	
1月25日～1月27日 2月1日～2月14日 2月18日	常設展示室の資料交換を実施（休室） 図書室の蔵書点検・資料整理を実施（休室） 令和元年度第2回昭和館運営専門委員会を開催
2月28日～6月1日 3月1日 3月4日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館 紀要「昭和の暮らし研究」（第18号）を刊行 第20回昭和館運営有識者会議を開催（持ち回り開催）
3月14日～5月10日	特別企画展を開催（新型コロナウイルスの感染拡大防止のための臨時休館に伴い中止） 「SF・冒険・レトロフューチャー ～ぼくたちの夢とあこがれ～」
3月20日～7月12日	戦後75年特別企画写真展を開催 「東京情景一師岡宏次がみた昭和一」（第1期） （新型コロナウイルスの感染拡大防止のための臨時休館に伴い4、5月は中止）

令和元年度事業概要

I 展示事業

展示事業では、戦中・戦後の国民生活上の労苦を伝える実物資料等の常設展示を行うとともに、関連する資料の収集、保存、管理を行っている。

また、特別企画展や巡回特別企画展等を開催した。

(「V 特別企画展等の開催及び概要」参照)

1 常設展示

(1) 常設展示室の概要

7階及び6階の常設展示室においては、多くの国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えるための展示を行っている。

7階では、戦争が激しくなる少し前の昭和10年(1935)頃から、昭和20年(1945)8月15日までの戦中の暮らしを、6階では終戦から『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記された昭和30年(1955)頃までの戦後の暮らしを、それぞれ多くの実物資料とともに写真・映像資料、図解資料等を併せて展示し紹介している。

(2) 展示資料の入れ替え

長期展示による資料の劣化を避け、また、できるだけ多くの方々からの寄贈資料を紹介するため例年2回、1月と6月に展示資料の入れ替えを行っている。

令和元年度は、令和元年6月24日(月)から7月1日(月)までの8日間、常設展示室を休室し第9回常設展示室展示替えを実施し、令和2年1月25日(土)から27日(月)までの3日間、常設展示室を休室し資料交換作業を実施した。

また、開館20周年記念を機に、常設展示室図録を刊行した。

2 巡回特別企画展の開催

遠方に在住する方々の便宜を考慮し、さらに幅広い広報活動の一環として、年2回の巡回特別企画展を開催している。

令和元年度は、次の通り実施した。

(1) 第35回巡回特別企画展

「戦中・戦後の暮らし 福島展」

開催期間	令和元年10月17日(木)～10月27日(日)
会場	とうほう・みんなの文化センター 3階展示室
主催	昭和館
協賛	一般財団法人福島県遺族会及び一般財団法人日本遺族会第1ブロック
後援	福島県 福島県教育委員会 福島市 福島市教育委員会 福島民報社 福島民友新聞社 NHK福島放送局 ラジオ福島 福島テレビ 福島中央テレビ 福島放送 テレビユー福島 ふくしまFM
内容	福島県関連の実物資料を中心に、戦中・戦後の厳しい時代を生き抜いた人々が綴った手記や、その姿を記録した写真など、県内の資料館等から借用した資料も合わせ約280点を展示し、当時の世相や苦難の多かった暮らしを紹介した。特設コーナーを設けて、福島ゆかりの文化人である円谷英二、山川惣治、古関裕而を紹介した他、体験コーナーの音響什器では、福島出身の作曲家・歌手の楽曲を紹介した。
入場者数	4,388人(約399人/1日)
同時開催	福島展は「3館同時企画展」として、しょうけい館「しょうけい館(戦傷病者史料館)～福島展～」、平和祈念展示資料館「平和祈念展 in 福島」を同会場で開催した。 その他、公益財団法人福島県文化振興財団主催の「学ぼう、感動を!(東京2020応援プログラム)」も同会場にて開催した。

(2) 第36回巡回特別企画展

「戦中・戦後の暮らし 長崎展」

開催期間	令和元年11月30日(土)～12月15日(日)
会場	長崎歴史文化博物館 3階企画展示室
主催	昭和館
協賛	一般財団法人長崎県連合遺族会及び一般財団法人日本遺族会第5ブロック
後援	長崎県 長崎県教育委員会 長崎市 長崎市教育委員会 長崎新聞社 西日本新聞社 朝日新聞社 毎日新聞社 読売新聞西部本社 NHK長崎放送局 NBC長崎放送

KTNテレビ長崎 NIB長崎国際テレビ
NCC長崎文化放送 長崎ケーブルメディア
エフエム長崎

内 容 長崎県関連の実物資料を中心に、戦中・戦後の厳しい時代を
生き抜いた人々が綴った手記や、その姿を記録した写真な
ど、県内の資料館等から借用した資料も合わせ約350点を
展示した。特別展示として、「永井隆『この子を残して』」、
「昭和30年代の長崎～堺屋修一写真展～」のコーナーを設
け、長崎県の特徴が表れる展示内容となった。

入場者数 7,033人(約440人/1日)

巡回特別企画展



福島展



長崎展

3 貸出キット

令和元年度の貸出状況は、次の通りである。

＜貸 出 先＞（貸出実施順）

（学校）11校

大和市立渋谷小学校／千代田区立番町小学校／枚方市立長尾小学校／座間市立栗原小学校
／館山市立北条小学校／越谷市立千間台小学校／相模女子大学小学部／小平市立小平第一
小学校／横浜市立緑園東小学校／川崎市立臨海中学校／鷗友学園女子中学高等学校

(地方公共団体) 12自治体

横須賀市役所市民部市民生活課／新宿区立西落合図書館／富士見市鶴瀬公民館／川口市総務部総務課／上尾市市民協働推進課／鈴鹿市人権政策課／八王子市総務部総務課／台東区総務課／野々市市総務部総務課／茨城県保健福祉部長寿福祉推進課／三木町役場住民生活課／越谷市総務部総務課

(一般団体) 11団体

下関空襲・終戦展実行委員会／公益財団法人津青年会議所／中原校区遺族会／綾瀬市遺族会／特定非営利活動法人大森コラボレーション／浜松市遺族会／碧南市遺族連合会／こどもピースフェスタ実行委員会／庄原市戦没者遺族会／加美町小野田図書館／印西市遺族会

4 紙芝居定期上演会

当館が所蔵する紙芝居とワークショップの要素を取り入れた体験型の上演会を、紙芝居師により実施した。

なお、入場者の状況は以下の通りである。

上演月	入場者
令和元年 5月25日	83人
7月27日	109人
9月28日	108人
11月23日	85人
令和2年 2月 1日	92人
令和2年 3月28日	中止(※)
合計	477人

※令和2年2月28日から新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館に伴い中止。

5 教員のための博物館体験

学校と博物館の連携を図ることを目的に、小中高校等の教員を対象とした「教員のための博物館体験」として昭和館見学を実施した。

見学終了後の意見交換では、「限られた時間での見学の中で、学べた。」「高

学年に限らず、各学年の発達段階に応じて活用できるものがあった。」等の意見が出された。

開催日：令和元年7月25日（木）14：00～16：30
7月31日（水）14：00～16：30
8月22日（木）14：00～16：30

内容：① 学芸員による展示趣旨・方法の解説
② 収蔵庫等のバックヤード見学
③ 貸出キットの紹介
④ 意見交換

参加者：7月25日（木）小学校教諭5名、中学校教諭1名
その他（博物館ボランティア）1名 計7名
7月31日（水）小学校教諭4名 計4名
8月22日（木）小学校教諭1名、大学教授1名 計2名

6 実物資料の収集と保存

（1）実物資料の収集

令和元年度は、石川光陽が書いた昭和20年1月1日から9月28日までの日記（「大東亜戦争と空襲日記」）、昭和39年パラリンピック大会ポスターを含む高橋春人デザインのポスター等1,771点の寄贈を受け、島根県農地改革推進協議会が作成した農地解放のポスター、御成婚の際の美智子妃をモデルにした花嫁きせかえ等579点の購入を行った。

収蔵資料数は次表の通りである。（令和2年3月末現在）

寄贈資料	46,309点
購入資料	14,645点
厚生労働省からの無償貸付資料	3,243点
寄託資料	485点
合計	64,682点

（2）実物資料の保存と補修

令和元年度末までに収集した実物資料は、全て燻蒸処理を行い、整理、分類した上、地下1階の資料収蔵室で保管を行っている。

Ⅱ 図書映像資料等閲覧事業

1 図書文献関係

(1) 運用管理

① 閲覧室及び書庫の管理

4階図書室では、収集した戦中・戦後の国民生活に関する文献や戦争に関する基本図書・雑誌・地図等閲覧に供している。

閲覧室には座席30席のほか、所蔵資料や『戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム』等のデジタル情報及び『文藝春秋』等の雑誌データベースが閲覧できる端末を7台設置し、タッチパネルとキーボードの両方で使えるようにしている。

また、国内の類似施設情報が閲覧できる端末1台を設置し、来館者の利用に供している。

利用頻度が高い基本図書や新刊書、総合的な内容をもつ図書を中心に開架図書とし、利用状況に応じて随時調整している。

閉架図書は比較的利用頻度の高いものは4階書庫、その他は地下書庫に収蔵し、劣化の激しい図書は保管庫で別置保存している。

閲覧室入口付近の展示ケースでは寄贈図書の一部を随時紹介している。

② レファレンス・サービス（参考調査業務）

令和元年度のレファレンス・サービスは169件で、特に7月に多かった。レファレンスの内容は多岐にわたるが、7月は番組制作のための時代考証に関するものが目立った。

レファレンスの内容は随時蓄積し、利用ガイド等に反映させるよう努めている。

③ 利用ガイドの発行

レファレンスの内容に基づいて利用・検索の方法や、所蔵図書を紹介する「ぶらりらいぶらりい」を毎月発行し希望者に配布している。

④ 展示関連図書の公開と参考図書リストの配布、読書案内

来館者が特別企画展等の展示内容についてより一層理解が深められるよう、展示テーマに即した図書・雑誌を閲覧室内に展示し、気軽に手にして閲覧できるコーナーを設けている。

昨年度からの継続企画コーナー「あなたの出身地は？昭和館で見られる47都道府県の資料」では、2カ月ごとに資料の入れ替えを行っているが、今年度は巡回特別企画展を開催した福島県、長崎県を含め6県の関連資料を紹介した。

継続企画以外でも、大人から子どもまでを対象に話題になっている事柄

に関連する図書等を紹介した。今年度は、学芸部監修の山田風太郎原作のコミック「戦中派不戦日記」、箱根駅伝100周年、逝去した人物（吉沢久子、原広司、降籟康男、岸富美子、田辺聖子、明日待子、小沢昌一等、計10名）、テレビや映画関連では、NHK連続テレビ小説「なつぞら」、「この世界の（さらにはいくつもの）片隅に」に関する資料等を取り上げた。

また、特別企画展及び資料公開コーナー、オーラルヒストリー上映会の内容等と連動した図書・雑誌の公開も行っており、「女性たちの手記」、「昭和の野球」、「半藤一利さんの戦争体験談」等の関連資料を紹介した。

令和元年7月20日（土）から9月8日（日）まで、小学校高学年から中学生を対象に、「夏休みの宿題・研究用図書リスト」を作成して希望者に配布するとともに、ホームページにも同リストを掲載し、利用の便を図った。

また、同期間、小学生を対象にした「夏休みワークシート」も配布し、調べ学習の実践を推進した。今年度新たに作成したテーマは特別企画展に連携した「戦中・戦後の暮らし」で、前年度までに作成した「学校生活」「学童疎開」「空襲」「昭和20年終戦の年」「くらしの道具」「動物たちと戦争」「めざせ検索マスター！」とあわせて配布した。挑戦した子どもたちには図書室オリジナル缶バッジ等の記念品を贈呈した。

令和元年9月には、平和祈念展示資料館が九段生涯学習館にて開催した「シベリア抑留絵画展 冬と夏を描く」に関連して、関連本コーナーを設ける等、館内外との協力・連携をはかった。

⑤ ホームページ

図書室の紹介ページでは、開架図書を書架ごとに紹介するとともに、閲覧室内で紹介している資料の入れ替えごとに掲載し利用を促している。

「ぶらりらいぶらりい」を定期的に更新しているほか、「本に関するお問い合わせ」では、利用者からのレファレンス等を随時受け付けた。

資料募集のお知らせを掲載し、広く資料の寄贈を呼びかけている。

蔵書検索ページは、毎月データを更新し、館外からも検索できるようにしている。蔵書検索は、横断検索もできるほか、タイトルや著者名、フリーワードでの検索等さまざまな方面からできるようにしている。あわせて、過去のレファレンス事例もキーワードで検索して見ることができるようにしている。

⑥ 蔵書点検

令和2年2月1日（土）から2月14日（金）までの14日間、図書室を休室にし、蔵書点検を実施した。開架図書及び4階書庫の和図書を重点的に点検し、破損が著しい図書の修理や製本を行った。また、図書・雑誌の増加にともない、蔵書の移動を行った。

⑦ 利用状況

令和元年度 図書室入室者及び閉架資料利用状況（月別）

年月	入室者数	閉架資料	
		利用者数	利用冊数
平成31年4月	1,092	153	731
令和元年5月	1,120	143	617
6月	1,268	233	1047
7月	1,420	225	1043
8月	1,909	179	707
9月	945	158	701
10月	807	143	642
11月	1,188	189	755
12月	2,067	135	740
令和2年1月	1,657	79	478
2月	658	78	476
3月	0	10	17
合計	14,131	1,725	7,954

※3月の閉架資料利用数は、臨時休館中のため、職員利用によるもの

令和元年度 閉架資料の利用冊数（分野別）

分野	図書	雑誌
総記	91	2,253
哲学	34	3
歴史	846	203
社会科学	1,559	479
自然科学	29	57
技術・工学・工業	276	200
産業	80	88
芸術	186	442
言語	21	2
文学	1,013	21
合計	4,135	3,748

- ・ 図書の利用内訳は、「社会科学」では部隊史等を含む国防・軍事関係が多く、「文学」では体験記録・手記の利用が多かった。
- ・ 雑誌の「総記」には、週刊誌及び娯楽誌等の一般雑誌が含まれる。
- ・ 図書・雑誌以外では、地図66点が利用された。

(2) データ管理

① 収蔵図書データの管理

収蔵図書の書誌・所蔵データは随時点検、追加入力および修正作業を進めている。令和元年度は1, 650冊の書誌データの入力と装備を行った。

② 目次データ入力

図書検索システムでは、図書の書誌・所蔵データの他に目次データも入力し、目次を含めた情報を検索対象として「ことば」検索に役立たせている。令和元年度は1, 650件の目次データ入力を行った。

(3) 保存管理

資料の劣化に加え、閲覧やコピー利用による破損も増えつつあり、令和元年度は98冊の破損本を修理した。

なお、劣化が激しく合本できない雑誌については中性紙保存箱で保存している。

(4) 業務研修

資料収集・整理・保存管理、情報提供等図書館を取り巻く問題は、常に変化している。図書館業界や類似施設についての状況を把握し、今後の図書室の運営に反映させていくことを目的に職員業務研修に参加した。

令和元年度は、日本図書館協会主催の第105回全国図書館大会（令和元年11月21日（木）・22日（金）開催：於 三重県総合文化センター）等に参加し、業務の向上と他館との情報交換に努めた。

2 映像・音響関係

5階映像・音響室では、戦中・戦後の国民生活に関する映像・音響資料等について、検索端末を通して来館者へ提供している。検索端末は全部で20台設置されており、内訳は以下のとおりである。

多人数で同時に利用可能な団体専用端末が2台、当館類似施設の各ウェブサイトを紹介する専用端末が1台、国立国会図書館が提供する約5万の歴史的音源、にいがた MALUI 連携地域データベース、麦島勝撮影写真デジタルアーカイブを利用できる専用端末が1台、映像・音響資料を検索する端末が12台となっている。

そのほか4台は、パソコン操作が得意でない来館者も利用できることを目的に、「国民生活」「トピックス・著名人の顔」「スポーツ」「世間を騒がせた出来事」のニュース映画を簡単に閲覧できる検索コーナーやSPレコードの一部を試聴できるコーナー（令和元年度は、美空ひばりや常設展示室に展示されている資料の曲、新日本音楽、戦中の教科書に掲載された曲といったテーマで紹介した）と

なっている。

また、閲覧室の入口モニターでは、写真展開催期間中、関連映像として、戦時中の子どもたちの様子や終戦、マッカーサ上陸といった昭和のトピックに関するニュース映像を紹介した。秋には、皇居乾通り一般公開に伴い皇居周辺の映像を紹介した。そのほか資料公開コーナーと連動して、終戦や南極観測船「宗谷」出発のニュース映像、野球の水原茂選手を舞鶴港で迎えた引き揚げ援護局員のオーラルヒストリーも紹介した。

3 ニュースシアター

戦前から戦後のニュース映画と新作のオーラルヒストリーを毎週4作品ずつ選定して毎日上映する「昭和館懐かしのニュースシアター」は、令和元年度において193本のニュース作品と12作品のオーラルヒストリーを上映し、多くの来館者から好評を得ている。

4月29日(月)「昭和の日」と5月5日(日)「子どもの日」にはGW昭和館特別上映会やSPレコード鑑賞会を開催した。開館20周年を記念して制作した俳優・仲代達矢氏のオーラルヒストリーの上映や「魔法のペン」「フクチャンの潜水艦」「対馬丸～さようなら沖縄」等の子どもむけアニメ映画を上映した。

SPレコード鑑賞会では、戦時中に演奏や発売が禁止となったジャズやハワイアン等の敵性音楽や戦後初の邦画「そよかぜ」の挿入歌で大ヒットした「りんごの唄」等を蓄音機で紹介した。

また、令和元年9月21日(土)から10月4日(金)は、平和祈念展示資料館の九段生涯学習館における特別展示「シベリア抑留絵画展 冬と夏を描く」の開催に伴い、シベリア復員や引揚げに関するニュース映像を紹介し、各館の連携を図った。

4 収蔵資料

(1) 図書資料の収蔵状況

平成30年度は、前年度に引き続いて、戦中・戦後の国民生活に関する図書・雑誌をはじめ、写真集や部隊史、少年少女雑誌・児童向け図書等を中心に収集した。収蔵概数は次表の通りである。(令和2年3月末現在)

国民生活関係図書	65, 165冊
戦争に関する基本的図書	21, 775冊
独自資料	35, 980冊
その他基本図書	11, 604冊
合計	134, 524冊

<令和元年度の主な受入資料の内訳>

○ 国民生活関係	1, 946冊
・ 当時刊行された雑誌類や生活体験記等	
『国防科学雑誌 機械化 第8巻第2号 (昭和20年2月・3月合併号)』	
『新しい憲法 明るい生活』	
『戦争が立っていた 戦中・戦後の暮らしの記録 拾遺集 戦中編』	
『おじいちゃん、戦争の話聞かせてください。』等	
○ 戦争に関する基本的図書	939冊
・ 太平洋戦争関連の基本文献、部隊史、戦争関連の体験記等	
『みんなで戦争 銃後美談と動員のフォークロア』	
『歩兵第三十一聯隊史』	
『県民が語る太平洋戦争史 鳥取県』	
『七つボタンの夢 十五の予科練』等	
○ その他	49冊
・ 寄贈を受けた各類似施設の刊行物等	
『国立歴史民俗博物館研究報告』『東京都江戸東京博物館紀要』等	
・ 定期購読誌	
『文藝春秋』『中央公論』『軍事史学』『丸』等	

(2) 映像・音響資料の収蔵状況

利用者が検索システムを利用して閲覧できる映像・音響資料の収集を進めている。昨年度に引き続きカメラマンの師岡宏次氏が撮影した写真一式、米国立公文書館所蔵の占領下の日本の写真、GHQの名古屋第5陸軍に配属され昭和21～22年まで日本に滞在したアネット・チェイト・ファインストーン氏が、滞在中に撮影した写真を入手し、館内アーカイブでの提供に向け

て整理作業を進めている。

<令和元年度の受入資料>

(1) 記録写真	1, 555枚
<主な資料>	
米国立公文書館所蔵	748枚
アネット・チェイト・ファインストーン撮影写真	125枚
師岡宏次氏撮影写真	一式(※)
➤ 膨大な量で数量確定の整理作業に時間を要するため1, 555枚には含まれていない。	
(2) 記録映像	62本
<主な資料>	
日本ニュース	30本
米国立公文書館所蔵	30本
(3) 音響資料	81枚
全て個人寄贈のSPレコード	

<令和元年3月末現在の提供データ件数>

	データ件数
静止画資料	29,092件
動画資料	3,376件
音響資料	13,888件
計	46,356件

Ⅲ 関連情報提供事業

関連情報提供事業では、①昭和館が所蔵する図書資料、映像・音響資料の情報、②雑誌資料等をデータベース化した情報、③昭和館類似施設（国内110カ所）の基本情報を、それぞれ来館者が端末で利用できるよう提供している。

特に図書資料については千代田区内の関連施設・大学図書館との横断検索ができるようになっている。

1 運用管理

(1) システム運用管理

来館者に総合データベース（図書雑誌目次情報、静止画（写真）、動画、音響）、個別データベース（戦史叢書・陸海軍部隊略歴、デジタル雑誌等）及び類似施設等の関連情報を提供している。来館者が様々な条件から資料を検索し、閲覧できる方法を採用している。

システム稼働は安定しており、ハードウェア及びデータ損傷等の大きなトラブルはなかった。さらに今年度は、機能追加、データ項目の追加等の改修を行い利便性や操作性を高めた。

令和元年度の各データベースへのアクセス数をまとめたのが次表である。アクセス総数は445,214件、月平均約37,101件で、多くの来館者に利用されている。

	図書	雑誌	写真	映像	音響	個別DB	月別合計
平成31年4月	2,859	1,487	25,798	8,596	3,503	118	42,361
令和元年5月	3,040	2,081	20,666	9,395	2,765	172	38,119
6月	3,294	3,287	24,652	8,519	2,860	177	42,789
7月	3,422	1,833	22,418	6,728	2,890	129	37,420
8月	3,658	1,953	34,019	11,064	3,226	241	54,161
9月	2,819	1,399	24,026	7,023	2,890	89	38,246
10月	2,314	1,275	20,589	4,909	2,340	98	31,525
11月	3,842	2,021	26,802	7,198	2,573	153	42,589
12月	3,169	1,928	24,437	8,901	2,710	309	41,454
令和2年1月	3,341	1,425	24,209	7,390	2,260	272	38,897
2月	1,192	1,918	22,094	6,778	2,507	74	34,563
3月	497	141	1,989	414	15	34	3,090
合計	33,447	20,748	271,699	86,915	30,539	1,866	445,214

(2) データベース運用管理

来館者閲覧用及び記録資料のデジタル化を進め、以下のデータベースを稼働させている。館内で職員が常に情報追加・更新を行っている総合データベースと、公刊戦史や部隊情報、雑誌をデジタル化した個別データベースに分けることができる。

- 収蔵図書・雑誌目次情報（総合データベース）
収蔵図書や雑誌の書名・著者名・雑誌名等書誌情報のほか、目次を全てテキスト入力しており、「目次情報」からも検索ができるようになっている。
- 収蔵映像・音響資料情報（総合データベース）
収蔵している静止画（写真）、動画及び音響資料（SPレコード）を、タイトルや作曲者名等の資料情報から検索でき、目的の映像または音楽を表示し、また視聴できるようにしている。
- デジタルライブラリー（個別データベース）
昭和館で独自に開発したデータベースで、年鑑と雑誌をデジタル化し、それぞれが検索でき、各雑誌間での横断検索も可能である。現在閲覧できる資料は「中央公論」「婦人公論」「写真週報」「文芸春秋」「改造」「防空新聞」「大毎小学生新聞」等
- 戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム（個別データベース）
防衛庁防衛研究所戦史室編纂の『戦史叢書』、厚生省援護局編纂の「部隊略歴簿」「艦船行動調書」等をデータベース化し、横断検索を可能にして、利用の便を高めている。

(3) ホームページ運用管理

開館時から引き続き昭和館ホームページの定期更新を行っている。

常設展示室の展示替えをはじめ、特別企画展や巡回特別企画展、写真展や資料公開コーナー等の展示案内、紙芝居の上演会やオーラルヒストリー特別上映会といった催し物の案内に加えて、語り部育成事業についても研修の様子や定期講和会や語り部派遣等の最新情報発信のため、月2～3回の内容更新を行った。さらに令和2年2、3月については、新型コロナウイルス感染防止対策としての臨時休館情報等について臨時更新を行った。

令和元年度のアクセス数は次のとおりであった。

	アクセス数	月間平均アクセス数	開館時(or 導入時)からの累計
ホームページ	240,811	20,068	3,527,339
内「キッズナビ」	6,718	560	206,234

※キッズナビの導入は平成18年

(4) SNSの活用

広報の一環として、Twitter、Facebook、YouTubeでの情報発信を開始し、特別企画展をはじめとするイベントや図書室の資料紹介、所蔵映像等の情報を提供した。

令和2年3月末までのアクセス数等は、以下の通りである。

Twitter登録者数	フェイスブック閲覧者数	YouTube視聴回数
1, 192	11, 523	11, 003

(5) Wi-Fi提供

図書室、映像・音響室等での学習や調査研究を助けるため、外国人来館者へ向けたサービス向上のために1階ロビー、3階研修室、4階図書室、5階映像・音響室で提供をしている。

2 オーラルヒストリーの製作

戦中から戦後にかけての労苦を体験された方々の証言を、永く後世に伝えるため、「オーラルヒストリー」の制作を昨年に引き続き実施した。令和元年度は開館20周年記念として、戦時中に少年時代を過ごし、東京大空襲を体験した作家・半藤一利氏の証言映像を製作した。その他「戦没者への遺族の想い」「出征者への想い」「学徒出陣」「国民学校での生活」「進駐軍との交流」等、戦中・戦後の生活体験を中心に東京近郊及び、岩手県、鳥取県、宮城県の19作品（18人）を製作した。

令和元年12月7日、8日には開館20周年企画として半藤一利氏のオーラルヒストリーの初公開上映を実施した。1階ニュースシアターにおいて80席の先着順で開催し、2日間の参加者は154名であった。

令和元年度の製作作品は以下のとおりである。

作品タイトル	証言者
10代の太平洋戦争<東京大空襲編>	半藤 一利
絵描きを志した少年	根本 圭助
記憶画で伝える戦中・戦後	新見 睦
元予科練生が見た進駐軍の生活	服部 晃
戦中のくらしと疎開してきた同級生	石井 徹
親子で耐えぬいた戦中・戦後	本多 和子
戦時下から復興へ	篠崎 喜美子
つらい生活が当たり前だった	馬場 敏雄

作品タイトル	証言者
最もつらかった昭和20年	仲井 富
生まれ育った大連からの引揚げ	宇井 靖子
大連での暮らしと引揚げ	柴崎 俊子
大学生活と学徒出陣	川島 東
嗚呼 悲しき青春	川島 東
母を支え懸命に生きる	國政 隆昭
父のいない戦後の苦労	中嶋 洋子
父の遺した想いを受け継いで	生林 隆輝
困難をバネにして	甘竹 勝郎
忘れられない母の涙	千田 力
父を想う陰膳	高橋 亮子

IV 啓発広報等事業

1 広報活動

(1) 広報資料の作成及び発送

「昭和館館報」については、都道府県、政令指定都市、東京特別区、教育委員会、老人クラブ連合会、各省庁図書館等に対して送付している。

なお、都道府県遺族会、類似施設、大学図書館等には「昭和館館報」と「昭和のくらし研究」を併せて送付し、当館の周知を図っている。

また、昭和館と学校をつなぐ広報誌「昭和館だより」第32号を令和元年6月下旬から7月上旬に関東の小学校（6年生）来館校、中学校（2年生）来館校、千代田区内の公立小学校（全校生徒）、東京都の校長会等で配付依頼した小学校（5年生）に発送した。更に東京都小学校社会科研究会、全国小学校社会科研究会に参加をして事業の説明を行い来館の促進を図った。

なお、全国の小・中・中等教育校に対しては令和元年11月に「昭和館だより」第33号を送付し当館の実施事業の周知を図ることに努めた。

その他に、今年度巡回特別企画展開催前に鳥取県、岩手県の小・中学校を訪問し、巡回企画展の広報に努めた。

(2) 広報と掲示及び掲載

当館の事業内容のPRのために、九段下駅4出口、東西線2番ホーム、半蔵門線3番ホームに電飾掲示板を設置して、九段下駅コンコース案内図に事業内容のPR活動を行った。さらに、令和2年1月11日からJR飯田橋駅構内に電飾看板を掲示しJRの利用者にもPR活動を行った。

また、特別企画展開催等の際には、都営新宿線の車内に、窓上ポスターを掲示したり、千代田区コミュニティバスの車内広告や九段郵便局等にポスターを掲示する等PRに努め、消火栓標識看板にも掲出した。

なお、郵便局の利活用については、巡回特別企画展においても行った。

さらに、毎月発行される東京メトロ「沿線だより」、東京メトロ・東京都交通局一日乗車券特典ガイド「ちかとく」、JTBや千代田区等のガイドブック、毎月発行される千代田区報に当館の紹介記事を掲載した。

その他、毎日新聞、東京新聞、産経新聞、日本教育新聞に広報記事を掲載した。

(3) 昭和館だよりの発行

昭和館の活動を学校等に随時伝えるため、広報誌「昭和館だより」第32号、第33号を、令和元年6月と令和元年11月に発行し、(1)に記載した教育関係機関に発送した。

(4) 戦中・戦後の労苦を伝える語り部事業

① 事業の概要

戦中・戦後の労苦を体験した方々が高齢化する中、当時のことを語り継いでいくことが難しくなっていることから、国民が体験した戦中・戦後の暮らしの上での様々な労苦を後世に語り継いでいく、戦後世代の伝承者である「語り部」を3年計画で育成する事業を実施し、修了後の研修生には、講話活動を委嘱する。

② 事業の実施状況

ア 平成28年度に募集した1期生（11名）については、月1回のペースで研修（各期共通）を行い、36回の研修を実施し、9名が修了した。平成29年度に募集した第2期生（7名）については、これまでに30回の研修を実施。また、平成30年度に募集した第3期生（7名）については、これまでに18回の研修を実施した。
（令和2年3月現在）

イ 研修予定

- * 1～2年目 : 語り部としての基礎知識研修、「家族の別れ」等テーマ別研修、話法・朗読技術の研修、体験談の聴講・体験者との交流等
- * 2～3年目 : 講話原稿作成、語り部実演・発表によるスキルアップ等

③ 修了した第1期生の研修生9名の中から審査の結果7名に講話活動を委嘱した。2期生については、研修終了後、昭和館から委嘱をした方には昭和館の「次世代の語り部」として講話等の活動をしていただく予定である。

講話活動は下記の方法で実施する。

- 定期講話活動 偶数月毎に昭和館ニュースシアターで定期的に講話活動を実施。12月と2月に実施した。
- 講話派遣活動 12月から講話派遣の受付を行い、1件実施した。3月以降予定のあった団体は、新型コロナウイルスの影響ですべてキャンセルとなった。

(5) こども霞が関見学デー

文部科学省主催で、令和元年8月7日（水）、8日（木）の2日間、各省庁を会場として開催された。昭和館は、厚生労働省社会・援護局の企画として「戦中・戦後の暮らしを学ぼう！」のタイトルで、貸出キットや雑誌資料、写真映像資料による出張展示を行った。訪れた子どもたちは、昔

の子どもたちが工作で作った「ぶんぶんごま」作りや、夏休みの自由研究に使用できるワークシートにチャレンジした。

- ・開催期間 令和元年8月7日（水）～8日（木）
- ・会場 厚生労働省 仮設会議室
- ・入場者数 820人

(6) 第18回昭和館見学作文コンクール

昭和館および巡回特別企画展を見学した小・中学生を対象に、見学作文コンクールを実施した。4校の小学生（6年）、1校の中学生（中2）、個人2名（小6）の合計198作品の応募があった。

審査の結果、小学校6年生の保戸塚理緒さんの作品が厚生労働大臣賞（別掲）に、小学校6年生の葛西優翔さんの作品が昭和館館長賞に選ばれた。作品はホームページ上で公開した。

(7) 第12回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール

中学生・高校生を対象に、あなたが感じた戦中・戦後の暮らし、昭和館を見学して、ポスターにしてみようを募集したところ、合計92作品の応募があった。

審査の結果、富山第一高等学校 瀧田結子さんの作品が最優秀賞に（別掲）、優秀賞（別掲）に7作品、佳作に12作品が選ばれた。

見学作文コンクール 第18回 昭和館

応募方法
400字程度用紙2～3枚の作文形式。
応募作品は返却しません。あらかじめ作品をコピーして、原本で応募ください。

送付方法
一次選定では全作品を審査し、送達作品は二次選定で審査委員の選定によって審査します。

各段の発表は本人（学校）に通知後、昭和館ホームページで行います。賞状・副賞は郵送します。優秀作品は昭和館ホームページに掲載する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

賞状・副賞
●最優秀賞 電子版ポスター（1名）
●優秀賞 電子版ポスター（1名）
●佳作賞 デジタルフレーム（5名）
●副賞 賞状（10名）
●特別副賞 副賞（2名）
●特別賞 昭和館オリジナル（5名）

募集期間
令和元年7月1日
から
令和2年1月15日まで

昭和館
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1
TEL.03-3222-2577 FAX.03-3222-2578
ホームページ <http://www.showamuseum.jp>

作文コンクール

第12回 昭和館 中学生・高校生ポスターコンクール

募集テーマ
昭和館を見学して、あなたが感じた戦中・戦後の暮らしをポスターにしてみよう。

募集期間
令和2年1月15日(水)まで

最優秀賞 賞状・副賞
村尾 梨穂さん

優秀賞 賞状・副賞
小原 優子さん

昭和館
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1
TEL.03-3222-2577 FAX.03-3222-2578
ホームページ <http://www.showamuseum.jp>

ポスターコンクール

2 『昭和のくらし研究』の刊行

昭和館の設立趣旨である「戦中・戦後の国民生活上の労苦を次の世代に伝える」紀要『昭和のくらし研究』第18号（戦後75年特集）を令和2年3月に刊行した。（平成15年度から年1回刊行）

目次は次の通りである。

『昭和館のくらし研究』第18号 目次

〈戦後75年特集〉

再考・方法としての生活史研究 —その断片と回想—

・・・・・・・・・・国立歴史民俗博物館 名誉教授 安田常雄

シベリア抑留者の帰還促進運動—神奈川県足柄上郡の青年同志会の取組—

・・・・・・・・・・小田原地方史研究会代表 井上弘

資料紹介 昭和館所蔵 新日本漫画家協会・日本漫画奉公会関係資料

・・・・・・・・・・昭和館学芸部

警察官石川光陽の日記と手記にみる終戦前後

・・・・・・・・・・立正大学非常勤講師 松尾公就

黒電話体験キットの作り方

・・・・・・・・・・渡邊一弘

昭和20年（1945）に関連したレファレンス事例の紹介

・・・・・・・・・・新城 敦



昭和のくらし研究第18号

3 展示資料の貸出

- 特別展「1964 -東京五輪がもたらしたもの-」
 - ・ 開催期間：令和元年7月20日（土）～9月1日（日）
 - ・ 会 場：安城市歴史博物館 1階 企画展示室
 - ・ 貸出資料：実物資料（ポスター「第15回オリンピック定期」他）
合計27点

- 『「オリンピック・パラリンピック」と千葉のスポーツ史』
 - ・ 開催期間 令和2年2月22日（土）～5月10日（日）
 - ・ 会 場 千葉県立中央博物館 第一企画展示室
 - ・ 貸出資料 実物資料（ポスター「パラリンピック 東京1964」他）
合計4点

4 昭和館運営専門委員会の開催

昭和館の事業計画の策定、事業の運営等に当たっては、開館以来「昭和館運営専門委員会」を年2回開催し、同委員会の意見を踏まえ、事業の充実推進を図っている。

昭和館運営専門委員会 委員名簿

(令和2年3月31日現在 50音順、敬称略)

委員長	宮 脇 岑 生	(元国立国会図書館副館長)
委員	赤 木 完 爾	(慶應義塾大学名誉教授)
〃	上 野 憲 示	(文星芸術大学名誉学長)
〃	加 納 正 弘	(元厚生労働省大臣官房審議官)
〃	鈴 木 淳	(東京大学大学院人文社会系研究科教授)
〃	花 輪 隆 昭	(元昭和館館長)
〃	松 井 かおる	(江戸東京博物館学芸員)
〃	関 沢 まゆみ	(国立歴史民俗博物館研究推進センター長)
〃	吉 村 潔	(世田谷区立烏山北小学校長)

5 昭和館運営有識者会議の開催

昭和館の運営について、幅広い視野からの意見を得ながら、公正かつ中立的な運営を確保するため、平成15年4月から厚生労働省社会・援護局に「昭和館運営有識者会議」を設置し、これまで20回にわたり委員会を開催し、昭和館運営事業の計画概要の意見交換を行っている。

昭和館運営有識者会議委員会 委員名簿

(令和2年3月31日現在 順不同・敬称略)

委員長	波多野 澄 雄	(国立公文書館アジア歴史資料センター長)
委員	山 田 大	(一般財団法人日本遺族会常務理事)
〃	増 田 弘	(立正大学法学部法学科特任教授)
〃	神 津 カンナ	(作家・エッセイスト)
〃	上安平 湧 子	(NHKグローバルメディアサービス元企画事業部長)
〃	鈴 木 淳	(東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授)
〃	藤 田 琢 治	(練馬区立大泉学園中学校教諭)
〃	松 井 かおる	(江戸東京博物館学芸員)

6 インターンシップ

飯田橋公共職業安定所（ハローワーク飯田橋）からの依頼により、高校生の職業意識の形成を目的とする「ジュニア・インターンシップ（就業体験）」を実施し、令和元年7月4日（木）～6日（土）まで都立工芸高等学校1名を受入れ、職員の指導の下、当館の業務を体験させた。

7 関係施設等連携会議の開催等

関係施設等連携会議（昭和館事務局）を開催するとともに、しょうけい館、平和祈念展示資料館との3館の連携に取り組んでいる。

〔 関係機関：厚生労働省社会・援護企画課、総務省大臣官房総務課管理室
平和祈念展示資料館、しょうけい館、昭和館 〕

- (1) 第16回会議を令和元年6月5日（水）に開催
第17回会議を令和2年1月31日（金）に開催
- (2) 3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」実施
開催期間：令和元年7月13日（土）～9月1日（日）
参加者数：9, 276人

- (3) 移動教室「シベリア抑留絵画展 冬と夏を描く」を開催
開催期間：令和元年9月25日（水）～10月1日（火）
主催：平和祈念展示資料館
協力：昭和館、しょうけい館
場所：九段生涯学習館 2階 九段ギャラリー
- (4) 巡回特別企画展の相互協力
- ・ 福島県における巡回特別企画展は、しょうけい館、平和祈念展示資料館と同じ会場で同時開催し、連携を図った。
 - ・ 長崎県における巡回特別企画展では、しょうけい館と平和祈念展示資料館についてポスターを掲示する等の周知を図った。

V 特別企画展等の開催及び概要

昭和館では、多岐にわたる「戦中・戦後の国民生活上の労苦」を次の世代に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容で、特別企画展等を開催している。

1 昭和館開館20周年記念特別企画展

「受け継がれる想い～資料に見る戦中・戦後の暮らし～」

昭和館は平成31年3月で開館20年を迎えた。これまで延べ約2,900名の方々から寄贈を受け、収集した資料（購入資料を含め）は約6万点（平成31年1月末現在）にのぼる。全国から寄贈された資料について、寄贈するまでの経緯、その想いなどとともに、未公開資料をテーマ別に紹介した。

開催期間：令和元年7月20日（土）
～9月8日（日）

会場：昭和館3階 特別企画展会場
入場者数：14,035人（319人／1日）



<展示構成>

プロローグ 昭和館の資料収集について

第一部 資料が語る人々の暮らし

1. 家族の物語

- (1) 昭和の家族
- (2) 家業

2. 学校の物語

- (1) 戦中・戦後の学校
- (2) 学童集団疎開
- (3) 学徒勤労動員

第二部 コレクション紹介

1. 遊び
2. 兵事行政資料

3. 代用品
4. 伝単
5. 罹災証明書
6. 引揚証明書
7. 戦後検閲関係資料
8. オキュパイド ジャパン

エピローグ 次世代へ伝えるために

<イベント>

1. 映画上映会

月光原国民学校(現・目黒区立月光原小学校)の学童集団疎開生活をえがいた映画「みんなわが子」(上映時間93分)を上映した。

期 日：7月28日(日)・8月11日(日)・8月25日(日)

会 場：1階昭和館懐かしのニュースシアター

参加者数：183人

2. 展示解説

期 日：7月27日(土)・8月10日(土)・8月24日(土)

会 場：3階特別企画展会場

参加者数：90人

3. クイズラリー

各階に設置された昭和館に関するクイズに答える。

期 日：特別企画展会期中

会 場：3階特別企画展会場

参加者数：504人

2 特別企画展

「SF・冒険・レトロフューチャー ～ぼくたちの夢とあこがれ～」

いつの時代においても、少年たちは読物から想像力を刺激され、さまざまな事象にあこがれを抱いた。世相の変化とともに、あこがれの対象は移り変わっていった。

本展覧会では、おもに戦中・戦後の少年たちが、科学や宇宙、未来へと胸を躍らせ、夢と希望を抱くきっかけをつくった少年文化の移り変わりを紹介する。

開催期間：令和2年3月14日（土）
～5月10日（日）

会場：昭和館3階 特別企画展会場

協力：講談社

後援：千代田区 千代田区教育委員会

入場者数：0人



※令和2年2月28日から新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館に伴い中止。

<展示構成>

- I. 空想科学 (SF) の黎明
- II. 紙芝居・絵物語の世界
- III. 少年たちの未来予想図

<予定していたイベント>

1. 活動弁士による無声映画上映会
2. 春休み遊びイベント
3. 展示解説

3 特別展示

(1) こうの史代イラスト原画展

昭和館開館20周年を記念して、この史代さんが描き下ろしたイラスト原画を期間限定で展示した。このイラストは、平成23年(2011)に大和ミュージアム企画展のために描かれたもので、この史代さんと大和ミュージアムのご厚意により、昭和館に寄贈された。

開催期間：令和元年7月9日(火)
～12月26日(木)
会場：昭和館5階 ギャラリー
協力：この史代
大和ミュージアム(呉市海事
歴史科学館)

昭和館開館20周年記念
この史代イラスト原画展

昭和館開館20周年を記念して、この史代さんが描き下ろしたイラスト原画を期間限定で展示します。これらのイラストは、平成23年(2011)に大和ミュージアム企画展のために描かれたものです。今般、大和ミュージアムとこの史代さんのご厚意により、昭和館に寄贈されました。

昭和館 無入料場

主催：昭和館
会場：昭和館5階 ギャラリー
開催時間：10:00～17:30(入館は17:00まで)
休館日：毎週月曜日
所在地・開館時間：東京都千代田区丸の内1-6-1
展示・企画協力：大和ミュージアム(呉市海事歴史科学館)
問い合わせ先：03-3222-2577

令和元年7月9日(火)～12月26日(木)

(2) 開館20周年記念展示「昭和館20年の足跡」

これまで開催した特別企画展、写真展等のチラシを展示し、20年を振り返った。

開催期間：令和元年7月20日(土)～9月8日(日)

会場：昭和館2階ひろば
主催：昭和館
入場者数：13,027人(約296人/1日)

4 開館20周年記念写真展

「昭和の世相～写真が語る戦中・戦後～」

開催期間：令和元年9月14日（土）～12月15日（日）

会 場：昭和館2階広場

内 容：戦中・戦後の移り変わりを「子どもの世界」「装い」「乗り物」「話題となった出来事」をテーマに当館が所蔵する写真から紹介した。

入場者数：23,128人
（約297人/1日）



5 戦後75年特別企画写真展

「東京情景－師岡宏次がみた昭和－」

第1期 戦争への不安と人びとの暮らし

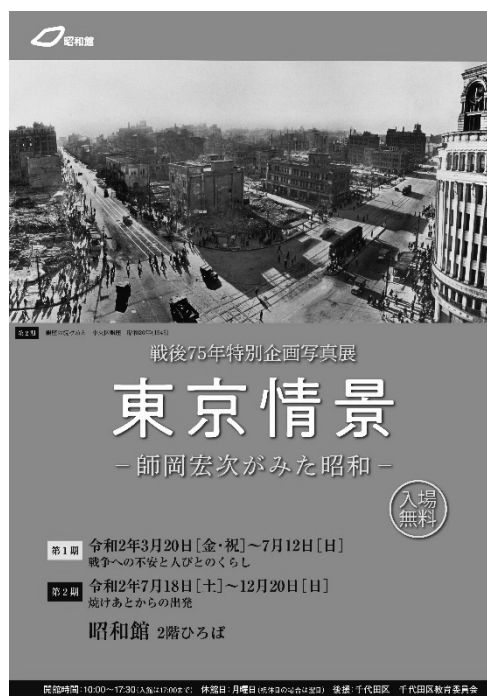
開催期間：令和2年3月20日（金）～7月12日（日）

会 場：昭和館2階広場

展示内容：昭和初期から東京を撮り続けた写真家、師岡宏次の作品を紹介した

入場者数：2,749人
（約275人/1日）

※入場者数は令和2年3月20日～31日のもの。新型コロナウイルス感染拡大防止のため4月1日（水）からは休止とし、6月2日（火）に再開した。



6 資料公開コーナー

昭和館が収蔵する映像資料・写真資料（5階）・図書資料（4階）を多くの来館者に利用していただくきっかけになることを目的に、1階ロビーの一角にコーナーを設けて、資料を随時公開している。

令和元年度に紹介した資料の各テーマと期間は、以下の通りである。

実施回	タイトル	期間
第72回	中高校生ポスターコンクール入賞作品展示	平成31年4月2日（火） ～令和元年6月30日（日）
第73回	歌詞カードにみる戦後歌謡	令和元年7月2日（火） ～9月23日（月）

実施回	タイトル	期間
第74回	第一次南極観測船「宗谷」の出港 ～人びとの期待をのせて～	令和元年9月25日(水) ～12月27日(金)
第75回	雑誌から見る昭和の子どもと野球 ～白球に夢中だった日々～	令和2年1月5日(日) ～3月29日(日)

注：回数は平成19年度開始以来の通算回数

※第75回資料公開コーナーについては、2月28日からの新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館に伴い中止。

7 5階ギャラリー展示

開館20周年を記念して『この史代イラスト原画展』を開催した。

紹介した作品は、広島県呉市の戦中から戦後復興期までのある家族の団らんの様子等が描かれ、それぞれの時代を分かりやすく感じていただけるもので、常設展示室ではパネル化したものを展示している。

1 昭和館入場者状況の推移（平成11年度～令和元年度）

	常設展示室										図書室	特別企画展	ニュースシアター	総計
	大人	高校・大学生	小・中学生	ぐるっパス	無料	合計	映像・音響室	合計						
平成11年度	84,620	2,479	3,737	-	-	90,836	35,236	90,836	19,398	31,142	-	176,612		
平成12年度	40,457	1,973	10,186	-	2,914	55,530	27,661	55,530	16,370	24,112	-	123,673		
平成13年度	36,830	2,396	19,739	-	3,610	62,575	38,866	62,575	20,616	33,903	65,124	221,084		
平成14年度	29,847	3,373	19,710	-	4,016	56,946	39,286	56,946	20,622	26,204	112,402	255,460		
平成15年度	28,802	2,725	22,713	-	5,235	59,475	34,328	59,475	19,072	28,953	115,594	257,422		
平成16年度	29,862	3,140	27,162	-	5,592	65,756	33,046	65,756	19,573	26,920	112,164	257,459		
平成17年度	30,288	2,596	29,502	-	6,265	68,651	35,416	68,651	19,449	35,611	124,259	283,386		
平成18年度	28,407	2,919	25,504	-	6,363	63,193	29,225	63,193	18,465	35,848	125,484	272,215		
平成19年度	26,845	3,611	27,519	-	7,605	65,580	32,683	65,580	17,617	66,280	133,564	315,724		
平成20年度	23,469	3,245	31,847	-	6,082	64,643	32,101	64,643	17,270	45,719	119,418	279,151		
平成21年度	20,997	2,412	28,736	2,540	6,059	60,744	29,787	60,744	19,898	40,627	115,523	266,579		
平成22年度	21,076	2,605	28,051	2,102	5,194	59,028	28,388	59,028	19,011	53,423	105,242	265,092		
平成23年度	18,400	3,347	24,067	1,815	4,868	52,497	28,410	52,497	19,130	55,293	88,989	244,319		
平成24年度	19,340	2,644	24,419	1,662	5,206	53,271	33,092	53,271	20,984	83,568	99,329	290,244		
平成25年度	20,952	3,173	24,932	1,636	6,284	56,977	32,653	56,977	22,013	68,427	126,225	306,295		
平成26年度	20,367	3,225	33,335	1,884	8,524	67,335	37,692	67,335	22,523	104,753	138,008	370,311		
平成27年度	28,362	3,689	34,680	2,559	7,667	76,937	37,252	76,937	20,499	163,928	226,440	525,056		
平成28年度	21,932	3,264	33,706	1,913	4,461	65,276	31,007	65,276	18,781	95,210	143,326	353,600		
平成29年度	23,737	3,152	44,970	1,795	5,091	78,745	38,110	78,745	21,449	149,538	174,407	462,249		
平成30年度	24,890	4,060	34,244	1,818	5,572	70,584	31,176	70,584	17,626	141,383	156,586	417,355		
令和元年度	22,094	3,227	30,812	1,730	4,655	62,518	32,285	62,518	14,095	115,478	121,684	346,060		
合計	601,574	63,255	559,551	21,454	111,263	1,357,097	697,700	1,357,097	404,461	1,426,320	2,403,768	6,289,346		

2 令和元年度利用者実績

(単位：人)

	常設 展示室	映像・ 音響室	図書室	ニュース シアター	特別 企画展等	合計	特別企画展等内訳
平成31年 4月	3,607	2,185	1,092	17,665	40,442	64,991	4/1 (1/27~12/27) 開館20周年記念スタンプラリー 4/1 (3/16~5/6) 特別企画展期間 4/1 (3/16~5/6) 写真展期間
令和元年 5月	5,023	2,367	1,120	10,060	9,100	27,670	~5/6 特別企画展期間 ~5/6 写真展期間 5/25 紙芝居定期上演会
6月	4,076	2,612	1,268	7,787	0	15,743	
7月	4,237	2,796	1,394	9,058	5,861	23,346	7/9~ 特別展示期間 7/13~ 夏休み3館めぐりスタンプラリー 7/20~ 特別企画展期間 7/20~ 特別展示期間 7/27 紙芝居定期上演会
8月	6,967	4,165	1,909	14,448	19,052	46,541	特別展示期間 夏休み3館めぐりスタンプラリー 特別企画展期間
9月	3,614	2,513	945	8,780	8,050	23,902	~9/1 特別展示期間 夏休み3館めぐりスタンプラリー ~9/8 特別企画展期間 ~9/8 特別展示期間 9/14~ 写真展期間 9/28 紙芝居定期上演会
10月	4,567	2,177	807	9,029	10,419	26,999	10/17~10/27 特別展示期間 福島県巡回特別企画展期間 写真展期間
11月	7,102	3,286	1,188	13,109	8,627	33,312	11/23 特別展示期間 11/30~ 写真展期間 紙芝居定期上演会 長崎県巡回特別企画展期間
12月	10,508	3,992	2,067	14,636	10,935	42,138	~12/15 長崎県巡回特別企画展期間 ~12/15 写真展期間 ~12/26 特別展示期間
令和2年 1月	6,156	3,424	1,647	8,144	0	19,371	
2月	6,661	2,768	658	8,968	243	19,298	2/1 紙芝居定期上演会
3月	0	0	0	0	2,749	2,749	3/14~5/10 特別企画展期間 3/20~7/12 写真展期間
合計	62,518	32,285	14,095	121,684	115,478	346,060	

3 常設展示室入場者数

総数	区分	種別	人数	割合(%)
62,518人	有料 27,051人	高・大学生	3,227人	5.2
		一般	23,824人	38.1
	無料 35,467人	小・中学生	30,812人	49.3
		視察者等	2,965人	4.7
		心身障害者	1,357人	2.2
		未就学児	333人	0.5

(参考) 団体による来館学校数

総数	区分	学校数	割合(%)
446校	小学校	322校	72.2
	中学校	78校	17.5
	高校	12校	2.7
	専門学校	5校	1.1
	大学	29校	6.5

4 来館団体御芳名

(敬称略)

月日	団体名	人数	月日	団体名	人数
5月9日	昭和町立常永小学校6年生	100名	12月11日	千葉市立海浜打瀬小学校6年生	106名
5月23日	平塚市立金目中学校2年生	147名	12月12日	守谷市立松ヶ丘小学校6年生	105名
5月24日	相模原市立清新中学校2年生	252名	12月13日	品川区立第一日野小学校6年生	104名
6月5日	文化学園大学杉並高等学校2年生	306名	12月17日	江東区立第二砂町小学校6年生	129名
6月7日	横浜市立錦台中学校2年生	172名	"	朝霞市立朝霞第六小学校6年生	151名
6月12日	海老名市立柏ヶ谷中学校2年生	174名	"	江戸川区立船堀第二小学校6年生	137名
6月21日	つくば市立秀峰筑波義務教育学校5年生	131名	12月19日	横浜市立日吉台中学校2年生	246名
8月15日	京都府全国戦没者追悼式参列団	163名	"	足立区立伊興小学校6年生	109名
9月18日	名張市立桔梗が丘中学校	105名	"	葛飾区立上千葉小学校6年生	124名
10月2日	名張市立南中学校2年生	101名	12月20日	葛飾区立幸田小学校6年生	123名
10月3日	富士宮市立富丘小学校6年生	156名	"	船橋市立法典東小学校6年生	135名
10月16日	印西市立原小学校6年生	143名	12月24日	千葉市立園生小学校6年生	120名
"	笠間市立友部小学校6年生	112名	1月7日	市川市立新浜小学校6年生	155名
10月25日	かずみがうら市立下稲吉東小学校6年生	108名	1月8日	東京学芸大学附属世田谷小学校6年生	104名
10月30日	横浜市立勝田小学校6年生	118名	1月9日	市川市立百合台小学校5年生	104名
"	保善高等学校2年生	112名	1月10日	川崎市立登戸小学校6年生	118名
11月1日	相模原市立大野南中学校2年生	129名	"	横浜市立藤の木小学校6年生	116名
11月7日	桐蔭学園小学部6年生	115名	1月15日	相模原市立上溝南中学校2年生	130名
11月12日	南足柄市立福沢小学校6年生	100名	1月16日	八王子市立第十小学校6年生	105名
"	葛飾区立水元小学校6年生	110名	1月17日	町田市立鶴川第一小学校6年生	118名
11月13日	富士市立岩松小学校6年生	103名	"	江戸川区立南葛西第二小学校6年生	111名
11月19日	東京学芸大学附属大泉小学校6年生	108名	1月21日	杉並区立高井戸第二小学校6年生	126名
11月20日	文京区立千駄木小学校6年生	106名	"	足立区立東伊興小学校6年生	100名
"	静岡市立宮竹小学校6年生	117名	1月23日	横浜市立新田中学校2年生	222名
11月21日	静岡市立城北小学校6年生	107名	1月24日	練馬区立石神井南中学校1年生	117名
11月28日	調布市立杉森小学校6年生	123名	"	稲城市立稲城第一小学校6年生	104名
11月29日	小山市立羽川小学校6年生	120名	2月6日	武蔵村山市立第七小学校6年生	109名
12月3日	世田谷区立赤堤小学校6年生	103名	"	日野市立大坂上中学校2年生	116名
"	千葉市立扇田小学校5年生	109名	"	練馬区立北町小学校6年生	109名
"	昭島市立拝島第一小学校6年生	103名	2月12日	四街道市立中央小学校6年生	139名
"	昭島市立拝島第三小学校6年生	108名	2月13日	練馬区立田柄第二小学校6年生	101名
"	目黒区立東根小学校6年生	128名	"	豊島区立目白小学校6年生	106名
12月5日	越谷市立鷺後小学校6年生	149名	2月14日	白百合学園小学校3年生	119名
"	足立区立亀田小学校6年生	135名	"	葛飾区立道上小学校6年生	118名
12月6日	江東区立第三砂町小学校6年生	100名	"	志木市立志木第三小学校6年生	103名
"	大和市立福田小学校6年生	114名	2月18日	府中市立四谷小学校6年生	108名
"	千葉市立蘇我小学校6年生	136名	2月19日	目黒区立碑小学校6年生	110名
12月10日	板橋区立成増小学校6年生	100名	2月20日	横浜市立南山田小学校6年生	131名
"	江東区立明治小学校6年生	169名	"	町田市立小山ヶ丘小学校6年生	146名
"	練馬区立上石神井北小学校6年生	116名	"	狛江市立和泉小学校6年生	105名
"	江戸川区立南葛西小学校6年生	107名	2月26日	印西市立木刈小学校6年生	104名

※紙面の都合により、100名以上で来館した団体のみを掲載しております。

5 第18回昭和館見学作文コンクール・厚生労働大臣賞受賞作品

平和な暮らしとは

小学校（6年） 保戸塚 里緒

「え、日本でこんなことがあったんだ。」

これは昭和館で戦争について学習した時に思ったことです。

戦中の食べ物は配給制で、食事はすいとん、ごはん、そしてたんぱく質を取るために虫なども食べていたそうです。私がこの時代に生きていても、虫を食べるのはちゅうちょしてしまいます。

また、戦中の日本人はいつふってくるかわからない焼いだんにおびえながら生活をしていたのでしょうか。電気が外に見えないようにカーテンをしまたり、夜に空しゅうが起きることも考えて、防空ごうにすぐ行けるように、まくらもとに大切な物と食料をおいて、服をきたままねていたりしていたと聞き、そう思いました。

そして、私は家族とはなれての疎開は大変でさびしかったらうと思いましたが。私なら疎開先での家族のいないさびしい暮らしにたえきれないと思いましたが。

戦争が終わってからも、疎開していた子供たちが都会にもどってきた時には家はなく、両親も亡くなった、「戦争孤児」が多くいたようです。食べ物も十分になく、大きな駅の構内などでねて、わずかなお金を集めていた子供たちは、すごく心細かったと思います。大変だった疎開から帰ったら両親に会えると思っていたのに、帰ってきても、行く前と景色はちがひ、両親はいないなんてかわいそうだと思います。

このようなことを調べて、今、安全だと思っていた日本にも、昔は戦争があり、たくさんの死者が出たことを知りました。昔のことではありますが、びっくりしました。

また、「あなたにとっての平和な暮らしとは何ですか。」という質問の答えも探しました。私は昭和館で調べ、平和な暮らしとは家族がそろい、食べ物や住む所に困らないことだと思いましたが。家族に会えないさびしい暮らし、少ない食べ物、安心してねることのできない暮らしはつらすぎると思ったからです。

でも、そもそも私だけが平和な暮らしなんてありえるのでしょうか。

私はありえないと思います。なぜなら、みんなが何かをするには、だれかが関わっていて、だれかが「平和」になるためには、その人に関わっている人も「平和」でなければならぬと思ったからです。一人だけが「平和」に暮らすなんてできないと、私は気付きました。

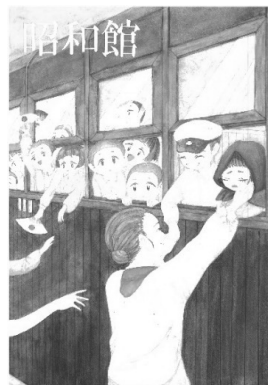
私は昭和館で戦争について学び、「平和」について考えました。そして、今の私の思う「平和」とは、みんなが「平和」であることです。自分の家族や友達だけでなく、みんなが「平和」ということが、私の平和な暮らしには必要だと思いましたが。

6 第12回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール入賞作品の紹介

<入賞作品（優秀賞以上）>



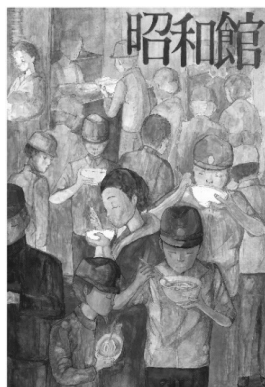
最優秀賞
富山第一高等学校
瀧田 結子
戦中の子供の遊び



優秀賞
富山第一高等学校
加藤 空
学童疎開



優秀賞
富山第一高等学校
寺坪 祐輝
逃



優秀賞
富山第一高等学校
金尾 望代
闇市



優秀賞
広島県立尾道東高等学校
杉原 穂乃花
昭和の子供の遊び



優秀賞
富山第一高等学校
有田 水紅
戦後の暮らし



優秀賞
富山第一高等学校
近藤 亜衣莉
昭和の生活



優秀賞
筑陽学園高等学校
永田 美結
昭和の別れ

7 施設概要

設立趣旨

昭和館は、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供することを目的として設立された。

具体的には、当時の国民生活の姿を伝える実物資料の展示事業、図書・文献及び映像・音響資料の閲覧事業並びに内外の資料館の概要等に関する関連情報提供事業等の諸事業を進めることにより、戦中・戦後の国民生活上の労苦を様々な視点から総合的に伝えていくこととしている。

昭和館建設の経緯

昭和54年に、財団法人日本遺族会から、戦没者遺児への慰藉のため、「戦没者遺児記念館(仮称)」を建設して欲しいという要望が、当時の橋本厚生大臣に提出された。

これを契機として、戦後に生まれた世代が国民の過半数を占め、今日の繁栄の礎となった戦没者の遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えることを目的に、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、各界有識者の参加のもと、「戦没者遺児記念館(仮称)」建設の検討が進められた。

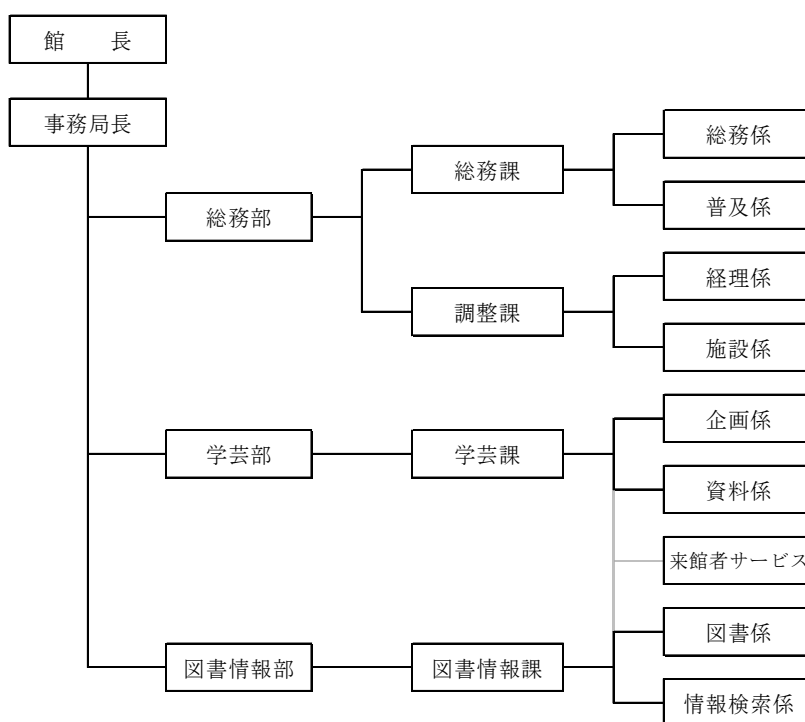
平成5年に、「戦没者追悼平和祈念館(仮称)」として厚生省(当時)予算に建設費が計上された。その後、有識者等からさまざまなご意見をいただき、平成10年12月末に竣工した。館の名称は、「昭和館」とされ、平成11年3月末に開館した。

なお、一般財団法人日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、館の運営に当たっている。

施設

面積	敷地面積	2,138㎡			
	延床面積	8,514.11㎡			
構造種別	S造（鉄骨造）一部SRC造（鉄骨鉄筋コンクリート造）				
階数	床面積（㎡）	主な用途	収容人員（人）	避難施設	備考
R階	206.04	機械室		避難階段	
7階	792.05	常設展示室（入口）	135	避難階段	戦中の国民生活
6階	795.37	常設展示室（出口）	142	避難階段	戦後の国民生活
5階	797.61	映像・音響室	63	避難階段	情報検索
4階	798.03	図書室 書庫	52	避難階段	図書閲覧 図書収蔵庫
3階	799.6	研修室・会議室	120	避難階段	特別企画展時は会場に使用
2階	718.61	広場		避難階	（臨時出入口）
1階	1288.42	資料公開コーナー エントランスロビー ニュースシアター 受付・総合案内・事務室	69 34	避難階	昭和館出入口
B1階	1011.42	資料収蔵庫 防災センター 機械式駐車場		避難階段	実物・図書資料収蔵（低温管理）
B2階	1306.96	機械室 機械式駐車場		避難階段	
合計	8514.11		615		

組織



8 令和元年度寄贈者御芳名

本年度に、資料をご寄贈くださいました方のお名前を記して御礼といたします。

実物資料寄贈者

[団体]

都道府県	寄贈者名
愛媛県	愛媛県西条市遺族会

実物資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
北海道	伊藤 治
〃	杉野目 康子
〃	福井 三男
青森県	石山 なおり
宮城県	北山 潔
〃	松尾 茂雄
福島県	佐藤 満
〃	中尾 佳彦
東京都	相澤 克子
〃	浅田 良子
〃	荒川 善則
〃	石川 令子
〃	石野 正明
〃	五十川 俊枝
〃	市毛 香織
〃	伊藤 澄子
〃	伊藤 俊文
〃	岩田 恒明
〃	白田 直哉
〃	大瀧 敏子
〃	岡本 茂
〃	小川 駿
〃	小熊 寿江
〃	影山 昌子
〃	梶原 四郎
〃	加藤 種義
〃	加藤 ちよ子
〃	加藤 令子
〃	近藤 哲也
〃	榮 久美子
〃	佐藤 祐子
〃	佐野 綾子
〃	柴田 貢
〃	鈴木 邦久
〃	関根 孝子
〃	関根 敏行
〃	高砂 寿子
〃	高橋 杏奴
〃	高橋 透
〃	武内 あや
〃	武 光男
〃	寺田 格郎
〃	遠井 礼子

都道府県	寄贈者名
東京都	富田 裕美子
〃	豊田 茜
〃	中西 里彦
〃	成田 武敏
〃	南條 和世
〃	根本 惣市
〃	高橋 修司
〃	半浦 賢
〃	土方 貢
〃	平賀 景子
〃	星田 言
〃	星野 恵理
〃	牧野 正道
〃	町田 忍
〃	水原 洋子
〃	宮澤 典夫
〃	森枝 かつら
〃	師岡 文男
〃	柳 幹夫
神奈川県	飯島 成子
〃	稲垣 嘉昭
〃	金子 泉
〃	金子 実
〃	瀬戸口 彌千代
〃	高尾 桂子
〃	高橋 一世
〃	高橋 清
〃	田中 宏実
〃	角井 桂子
〃	富浜 利郎
〃	西村 和夫
〃	根本 しげ子
〃	野口 英行
〃	藤田 友枝
〃	星田 宏作
〃	間庭 俊子
〃	三村 美恵
〃	森 泰秀
千葉県	井上 幸夫
〃	勝矢 輝夫
〃	加納 美智
〃	北尾 美成
〃	紅 林 玲子

都道府県	寄贈者名
千葉県	清水 真衣
〃	高辻 和彦
〃	根本 圭助
〃	野中 忠道
埼玉県	新井 菊江
〃	飯田 慶子
〃	海老名 常雄
〃	川瀬 弘司
〃	岸本 英樹
〃	佐藤 喜之
〃	末吉 哲
〃	杉本 範子
〃	中村 登
〃	松島 英顕
〃	山形 眞司
〃	和田 俊彦
茨城県	斎藤 嘉美
静岡県	天野 榮男
群馬県	木暮 美栄子
〃	須賀 宏江
〃	高井 喜久子
栃木県	鈴木 隆
山梨県	保坂 衣子
愛知県	小林 光昭
〃	森岡 益代
三重県	和田 寛
和歌山県	今田 仁美
大阪府	川合 謙治
〃	中田 有紀子
兵庫県	黒田 敏彦
〃	安田 典子
島根県	村上 美妙
広島県	小林 厚子
福岡県	西小部 巽
長崎県	浦上 裕子
〃	檉本 貞子
〃	河村 紀子
〃	楠本 武
〃	小林 富美代
〃	高瀬 順子
〃	吉岡 順子
海外	ケリー・カラカス
〃	Tamaki Haase Wu

図書資料寄贈者

[団体]

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名	都道府県	寄贈者名
北海道	北海道博物館	東京都	中央区立郷土天文館
青森県	青森県近代文学館	"	中央史学会
"	青森県立郷土館	"	千代田区地域振興部
宮城県	仙台市歴史民俗資料館	"	千代田区立日比谷図書文化館
"	東北歴史博物館	"	東京家政学院生活文化博物館
秋田県	一般社団法人 日本ラジオ歌謡研究会	"	東京都三多摩公立博物館協議会
山形県	米沢市上杉博物館	"	東京都写真美術館
茨城県	茨城県立歴史館	"	東京都博物館協議会
"	土浦市博物館	"	特定非営利活動法人 わだつみのこえ記念館
栃木県	大田原市なす風土記の丘湯津上資料館	"	豊島区立郷土資料館
"	國學院大學栃木短期大学日本文化学科 日本史フィールド	"	富山丸遺族会全国連合会
埼玉県	株式会社東美物流『スポーツゴジラ』係	"	日本経済評論社
"	川越市立博物館	"	日本カメラ博物館
"	埼玉県平和資料館	"	日本大学企画広報部広報課
"	幸手市郷土資料館	"	練馬区立石神井公園ふるさと文化館
"	武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会	"	日野市郷土資料館
千葉県	鎌ヶ谷市郷土資料館	"	文京ふるさと歴史館
"	国立歴史民俗博物館	"	防衛省防衛研究所戦史研究センター史料室
"	千葉県立中央博物館	"	町田市立自由民権資料館
"	野田市郷土博物館	"	港区総務部総務課人権・男女平等参画係
"	船橋市郷土資料館	"	明治学院大学国際平和研究所
"	歴史認識問題研究会	"	明治大学史資料センター
東京都	J C I I フォトサロン	"	靖國神社 遊就館
"	朝日新聞出版	"	有限会社バード・フォト・アーカイブス
"	荒川区立荒川ふるさと文化館	"	立教学院展示館
"	板橋区教育委員会生涯学習課文化財係	神奈川県	J I C A 海外移住資料館
"	板橋区立郷土資料館	"	愛川町郷土資料館
"	一般財団法人 古賀政男音楽文化振興財団 古賀政男音楽博物館	"	大磯町郷土資料館
"	一般財団法人 文民教育協会 子どもの文化研究所	"	小田原市郷土文化館
"	一般社団法人 日本郷友連盟	"	小田原城天守閣
"	大田区立郷土博物館	"	小田原市立図書館
"	株式会社クマヒラ	"	神奈川県立神奈川近代文学館
"	株式会社講談社 ヤングマガジン編集部	"	川崎市市民ミュージアム
"	北区飛鳥山博物館	"	公益財団法人 馬事文化財団 馬の博物館
"	株式会社 暮しの手帖社	"	戦時下の小田原地方を記録する会
"	慶應義塾福澤研究センター	"	平塚市博物館
"	公益財団法人 海原会	"	明治大学平和教育登戸研究所資料館
"	公益財団法人 偕行社	"	大和花の画房 高見清三郎
"	公益財団法人 水交会	"	横浜市史資料室
"	公益財団法人 政治経済研究所 東京大空襲・戦災資料センター	"	横浜都市発展記念館
"	公益財団法人 多摩市文化振興財団 パルテノン多摩	新潟県	柏崎市立博物館
"	公益財団法人 通信文化協会 博物館部(郵政博物館)	"	妙高市遺族会
"	公益財団法人 東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館	"	歴史教育史研究会
"	佼成出版社 児童書編集	富山県	富山市郷土博物館
"	しょうけい館	"	富山市民俗民芸村
"	昭和女子大学光葉博物館	福井県	福井県立若狭歴史博物館
"	昭和のくらし博物館	長野県	飯田市美術博物館
"	杉並区立郷土博物館	静岡県	浜松市博物館
"	すみだ郷土文化資料館	愛知県	安城市歴史博物館
"	世田谷区立郷土資料館	"	瀬戸蔵ミュージアム
"	専修大学大学史資料室	"	豊田市戦没者遺族連合会
"	戦争と萬葉集研究会	"	名古屋市博物館
"	たばこと塩の博物館	滋賀県	滋賀県平和祈念館

都道府県	寄贈者名
京都府	立命館大学国際平和ミュージアム
大阪府	一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
〃	大阪歴史博物館
兵庫県	明石市立文化博物館
〃	甲南大学人間科学研究所
和歌山県	和歌山県立紀伊風土記の丘
〃	和歌山県立博物館
鳥取県	鳥取県遺族会
〃	鳥取大学地域学部
〃	米子市立山陰歴史館
〃	米子市美術館
島根県	松江歴史館

都道府県	寄贈者名
岡山県	岡山空襲展示室
山口県	下関市立考古博物館
愛媛県	愛媛県歴史文化博物館
福岡県	福岡市美術館
佐賀県	佐賀県立佐賀城本丸歴史館
大分県	大分市歴史資料館
宮崎県	みやざき歴史文化館
鹿児島県	知覧特攻平和会館
沖縄県	沖縄県平和祈念資料館
〃	公益財団法人 沖縄県文化振興会公文書管理課
〃	ひめゆり平和祈念資料館

図書資料寄贈者

[個人]

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
北海道	伊 藤 治
〃	福 井 三 男
宮城県	北 山 潔
〃	松 尾 茂 雄
福島県	佐 藤 満
茨城県	宇 田 野 洋 子
〃	波 多 野 澄 雄
群馬県	金 澤 育 枝
埼玉県	新 井 菊 江
〃	飯 田 慶 子
〃	今 吉 孝 夫
〃	海 老 名 常 雄
〃	菊 地 正 浩
〃	岸 本 英 樹
〃	久 保 田 伊 美 子
〃	末 吉 哲
〃	松 島 英 顕
〃	森 山 ヨ シ 子
千葉県	飯 島 直 樹
〃	今 泉 啓
〃	紅 林 玲 子
〃	黒 田 明
〃	田 中 満 寿 乃
〃	根 本 圭 助
〃	野 中 忠 道
〃	服 部 晃
東京都	相 澤 克 子
〃	石 野 正 明
〃	市 毛 香 織
〃	伊 藤 俊 文
〃	臼 田 直 哉
〃	大 野 益 弘
〃	小 川 駿
〃	加 藤 種 義
〃	加 藤 令 子

都道府県	寄贈者名
東京都	木 崎 弘 美
〃	木 島 孝 行
〃	木 村 孝
〃	佐 藤 祐 子
〃	佐 野 綾 子
〃	柴 田 貢
〃	下 村 美 智 子
〃	白 尾 常 子
〃	高 瀬 聖 子
〃	高 橋 修 司
〃	高 橋 透
〃	寺 田 近 雄
〃	富 田 裕 美 子
〃	豊 田 茜
〃	永 井 美 代 子
〃	成 田 武 敏
〃	濱 口 和 久
〃	濱 田 嘉 一
〃	半 藤 一 利
〃	日 比 恆 明
〃	平 賀 景 子
〃	牧 野 正 道
〃	増 田 弘
〃	町 田 忍
〃	松 岡 登 志 子
〃	松 本 幸 子
〃	水 原 洋 子
〃	村 松 英 二
〃	森 枝 か つ ら
〃	師 岡 文 男
神奈川県	浅 井 俊 雄
〃	稲 垣 嘉 昭
〃	金 子 実
〃	亀 尾 覺
〃	瀬 戸 口 彌 千 代

都道府県	寄贈者名
神奈川県	高 尾 桂 子
〃	田 中 宏 実
〃	角 井 桂 子
〃	富 浜 利 郎
〃	西 村 和 夫
〃	野 口 英 行
〃	星 田 宏 作
〃	間 庭 俊 子
〃	南 川 隆 雄
〃	宮 内 香 織
〃	森 泰 秀
〃	八 木 宏 美
新潟県	鳴 海 緑
長野県	竹 村 淳
静岡県	宇 留 野 知 子
愛知県	内 田 信 得
〃	大 橋 崇 行
〃	小 林 光 昭
三重県	高 木 一
大阪府	川 合 謙 治
〃	東 松 至 朗
〃	平 田 葉 子
〃	牧 野 邦 昭
兵庫県	黒 田 敏 彦
鳥取県	安 部 朱 美
島根県	村 上 美 妙
高知県	清 岡 司 子
福岡県	小 畑 文 子
〃	本 多 絢
長崎県	岩 崎 信 廣
〃	浦 上 裕 子
〃	小 林 富 美 代
〃	高 瀬 順 子
〃	土 肥 原 弘 久
アメリカ合衆国	Tamaki Haase Wu

映像・音響資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
北海道	福井三男
宮城県	北山 潔
茨城県	大内みつい
群馬県	須賀宏江
〃	高井喜久子
埼玉県	新井菊江
〃	飯田慶子
〃	海老名常雄
〃	岸本英樹
〃	中村 登
〃	山形真司
〃	山田貴裕子
千葉県	紅林玲子
〃	野中忠道
〃	村上勇一
東京都	相澤克子
〃	浅田良子
〃	伊藤俊文
〃	白田直哉
〃	岡田佳子

都道府県	寄贈者名
東京都	岡本 茂
〃	小川 駿
〃	小林昭一
〃	榮久美子
〃	佐藤祐子
〃	柴田 貢
〃	関根敏行
〃	高砂寿子
〃	寺田格郎
〃	富田裕美子
〃	平賀景子
〃	牧野正道
〃	森枝かつら
〃	師岡文男
千葉県	井上幸夫
神奈川県	稲垣嘉昭
〃	櫻井路子
〃	瀬戸口彌千代
〃	高橋一世
〃	高橋 清

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
神奈川県	田中宏実
〃	富浜利郎
〃	西村和夫
〃	野口英行
〃	林 修
〃	星田宏作
〃	森泰秀
山梨県	小石孝夫・ロベルタ
福井県	木村文男
大阪府	川合謙治
長崎県	岩崎信廣
〃	浦上裕子
〃	小林富美代
〃	山口展子
アメリカ合衆国	ストーン 睦美

昭和館館報 第21号 (令和元年度)

令和2年7月発行

編集発行 昭和館

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

電話03 (3222) 2577